差別のない明るい町を

子どもの人権

「泣くのが赤ちゃん」

読売新聞の2013年12月19日号「今日のノート」欄に、標題の「泣くのが赤ちゃん」と題する記者のレポートが掲載されていました。

最近、赤ちゃんを強く揺さぶり、死に至らせるニュースを時々目にし、心を痛めていますので、全文をご紹介します。

乳幼児が激しく前後に揺さぶられた際に脳の損傷を引き起こす「乳幼児揺さぶられ症候群」（SBS）。死に至ることもある重大な虐待だ。

大津市で先日開かれた助産師らが対象の研修会。SBSの予防に取り組むNPO法人「MCサポートセンターみっくみえ」（三重県桑名市）の代表、松岡典子さん（56）が「孤立した育児の中で思わず揺さぶってしまう親は特別というわけではありません」と力を込めた。

きっかけの多くは「赤ちゃんの泣き声」。泣きやまないことに困惑し、結果的に強く揺さぶってしまうという。年間約1000件の電話相談を受ける松岡さんの元にも、「ダメな母親」「どうしていいかわからない」と悲痛な声が届く。

「赤ちゃんの『泣き』への理解を深め、適切な対応を知ることが予防につながる」と松岡さん。講座では、アニメーションのDVDを使い、赤ちゃんは泣いて意思を伝えていること、何をやっても泣きやまない時期があること、焦らず一息入れることなどを伝え、「絶対に強く揺さぶってはいけない」と助言する。

祖父母や将来親になる子ども向けの講座でも話す。「親は泣きやまさなければいけない」といった意識をなくし、正しい知識を持ってほしいと願うからだ。

「泣くのが赤ちゃん」。私たちも泣いて大きくなった。みんなで見守る社会でありたい。

文化・生活部主任　西村　公恵

確かに、各種の会合や、公共交通機関の中などで、泣きはじめた赤ちゃんを辛そうに揺さぶっている母親や父親を時々見かけます。周りの冷たい視線がよけいに心に刺さります。

そんな場面に出会った時は、「気にせんでええけん、赤ちゃんは泣くんが仕事やけんな。」と、優しい一声をかけてあげたいものですね。

参考・引用文献「読売新聞」2013年12月19日号

市人権推進課（教育庁舎1階）
TEL 32・2122
FAX 33・3525

市民文芸　花みずき歌壇（296）　松並敦子・選

人の世の石に躓きし日もありぬ晩年穏し桜草咲く　田浦町　西　照子

《評》長い人生には乗り越えなければならない苦難が多くある。その比喩として「人の世の石に躓く」こともあったとは言い得て妙である。終活が話題になったりしているが、作者はいま桜草を愛でながら静かな余生を過ごしている。「晩年穏し」は「終りよければ全てよし」の悟りに近い境地に達することが出来たものみの言える言葉である。

畑仕事終え帰りゆく夕つ方山こんこんと眠りいるなり　立江町　湯浅かや子

熱燗の酒一合でご機嫌の亡夫の影置く独りのお鍋　横須町　福島　夢栄

五時ですよ朝のラジオが時告げる　日脚も伸びて春はすぐそこ　立江町　浜　耕一

初七日は白いブーケを供えましょ　柔らな色のつぼみも添えて　横須町　山﨑　泰子

ノースボールわが家の代表宿根草　すでに顔見せ蕾を持てり　小松島町　川人　豊子

追い越され追い越されゆく散歩道　われはゆっくりマイペースなり　横須町　柿本美知子

肌寒き夕餉に作る自然薯の不揃いなるも　とろろ雑炊うまし　小松島町　多田　昭恵

一夜明け街一面の銀世界わが無遅刻の記録阻めり　立江町　品岡　和美

卵割る音のよければ佳き人の来るやも知れず如月半ば　江田町　吉見　民子

《今月は、軽自動車税全期分の納付月です。》
市税の納付は、確実・安心・便利な口座振替をご利用ください。